

製本のススメ

Vol. 96

毎日寒いですね。東京は2月が一番寒いでしょうか？今年のインフルエンザはリバイバルだそうで、40代以上には免疫を持っている人達が多いとか。良い薬も出ていますが、何れにせよ、元気が一番！

今回は『背丁』の話しリターンズ!!

何度か このスズメに登場している背丁(セチヨウ)ですので、今更わかっているよと言う方も多いと思いますが、軽印刷界には まだまだ馴染みが薄いようです。背丁と称しているのは『背票』と『背丁』の総合的な呼び名です。(以下 背丁と称します)

背丁とは、印刷物のタイトル・その刷り本の台数名を言います。例えば〇〇記念誌三折 と言うように、名前を付けるわけです。当社のように小さな製本工場でさえ、同じサイズに折られた物が点在します。もしも一台分が迷子になっても、名前が書いてあれば、元の場所へ速やかに戻すことができます。

背票とは、折丁の背外側に付ける印の事で、この印の印刷位置を少しずつずらしていくことで、何番目の折本なのかを判別する事ができます。そして、**この背丁は折加工後に、重要な役割を果たします。**

製本界では、ページを見ないという慣習があります。いちいち刷り本を眺めて、1ページ2ページと確認しないのです。まず、刷り本の全体をみて背丁を探します。そしてその**背丁が折った時に背に出れば、後は印刷の面付けが間違っていない限り、裏折や逆折りは絶対にあり得ません。**

さて、折加工が終われば丁合加工です。ここからはもう中身のページ確認がありません。では、どこで丁合順を確認するかというと、背丁です。これを頼りに丁合を進めます。規則正しく印刷された背丁は、美しい柄となって本文の背を飾ります。この時不規則な柄であれば、その部分は乱丁か落丁ということになり。1冊ずつ検査をせずとも、一目で不良が発見できる優れ物なのです。



Tea break

縁起かつぎはしないと云いつつも、やはり宝くじは大安に買いたいですね。この大安や友引などは六曜という歴の考え方によるもので、諸葛孔明が戦いの吉凶を知る際に使ったのが始まりとか。ところで、六曜のうち大安と仏滅は有名ですが、友引と赤口の意味は以外に知られていません。友引は『午前と午後は良く、正午は凶』赤口は「昼だけ良くて朝夕は凶」で災いに会いやすい日とされています。友引と言っても友を引くわけではないのですね。

by (株) 井関製本